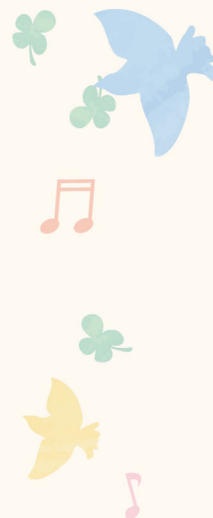


地域に飛び出し、『参加と貢献』も実践。地域と共に歩む



古くからの集落を山間に抱え、白糸の滝や長糸宇美八幡宮など、豊かな自然と歴史ある長糸校区。山すそにある長糸小学校は、一学年一クラスで全校児童約100人(令和元年度)です。人数が少ないからみんなの顔と名前が覚えられるという子どもたちは、どの先生からも名前と呼ばれ、大きな家族のように過ごしています。学校の外では、地域の人から「大きくなったね」と声をかけられることもしばしばです。

友達と話すことで、考える力と表現する力を育てるため、授業では気軽にわいわい話せるような工夫をしています。机をコの字型に並べたり、席を立てて自分の考えを交流する時間を設けたり、先生たちは意見交換しやすい学習環境をつくっています。各学年20人に満たない教室では、教師は子ども一人ひとりに目が行き届き、困っている子にはすぐ声をかけられるのと同時に、よくできた子もその場で褒めることがで

き、それぞれの自信につながっています。

平成30年から長糸小学校・長糸校区合同運動会の演目として始まった、高学年による「踊れ!ながいと」は、夏祭りや文化祭でも披露され好評です。揃いの法被や高さ5mもの旗は地域とPTAが予算を出し合って仕立てたものです。

校庭の草刈り作業は長糸校区を構成する6つの行政区が交代で担当。全校生徒で取り組む米作りでは、各行政区の区長やJA青年部など、子どもと同じ数ほどの大人が参加し熟練の技でサポートするなど、地域は小学校に密接に関わっています。

「参加と貢献」を重要なキーワードに掲げ、サポートされるばかりではなく、積極的に地域と関わり、活動の場を生かして自らの成長につなげる取り組みに力を入れています。



席を立ち、お互いに自分の考えを紹介し合う



お手製の旗が子どもたちの躍りを景気づける